

意見陳述

原告 七尾 寿子

ことのはじめの伊達火力発電

1970年代、伊達火力発電所建設の闘いは、長和の農民、有珠の漁師たちが立ち上がりました。「俺たちは魚に頼まれて闘っているんだ」というある漁師の叫びは、「環境権」を人々が認識した象徴的な言葉でした。建設差し止めの裁判は敗訴でしたが、伊達市の環境基本条例として結実し、今も生きています。

原発は泊に

泊原発建設が決まり、私は、電気の恩恵を受けながら環境を破壊せず、原発地域に暮らす人々を圧迫せず、生きていくのか、さらに問われたのです。

泊の堀株(ホリカツ)での反核反原発全道住民会議立ち上げのキャンプで、哲学者の花崎皋平さんが「みなさん、今、見ているあの山が、原発建設のために削られてしまいます。風景を変える意味を私はました。その時、私は乳飲み子だった娘を抱いて山を見ていました。

幌延に核のゴミ?

1980年代からはじまつた幌延の核廃棄物関連施設誘致問題。

地元酪農家との交流から乳

その燃料になるウラン鉱石の採掘から、発電、大量の核のゴミ、全てのサイクルにわたる放射能による環境破壊、健康被害、そして安全神話の嘘。

チエルノブイリ事故後、世界は脱原発の潮流の中にありました。事故後世界で初めてとなる泊原発1号機の営業稼働が目前に迫り、1988年、その営業運転開始を止めようとして起きた『泊原発の可否を問う道民投票条例』を求める直接請求運動で103万筆(有効数90万筆)が集まりました。

しかし、道議会でたった2票差で否決され、1989年に暮らす人々を抑圧せず、生きていけるのか、さらに問われたのです。

1号機、1991年2号機、2009年1月には3号機が営業運転を開始しました。チエルノブイリの子どもたちの保養の受け入れをここ北海道でも多くの人が取り組みました。

泊原発建設が決まり、私は、電気の恩恵を受けながら環境を破壊せず、原発地域に暮らす人々を圧迫せず、生きていくのか、さらに問われたのです。

泊の堀株(ホリカツ)での反核反原発全道住民会議立ち上げのキャンプで、哲学者の花崎皋平さんが「みなさん、今、見ているあの山が、原発建設のために削られてしまいます。風景を変える意味を私はました。その時、私は乳飲み子だった娘を抱いて山を見ていました。

牛の廃用牛を肥育して商品にしよう、幌延現地と札幌をつなごうという「まるごとモンチ」が生まれました。札幌から幌延まで往復560km、車にいくつものアイスボックスを積んで月一回通り続け、売り歩いた女たちの活動は1993年から5年続きました。

この間、「貯蔵工学センター計画」から「深地層研究計画」へと名前を変えながら稼働が目前に迫り、1988年、その営業運転開始を止めようとして起きた『泊原発の可否を問う道民投票条例』を求める直接請求運動で103万筆(有効数90万筆)が集まりました。

しかし、道議会でたった2票差で否決され、1989年に暮らす人々を抑圧せず、生きていけるのか、さらに問われたのです。

ウラン燃料と劣化ウラン弾

原発のウラン燃料に使うウラン235は、鉱石に微量しか含まれず、その精製過程で大量に出るウラン238は、劣化ウラン弾として鋼鉄の戦車をも撃ち抜く高性能の武器に姿を変え、湾岸戦争やイラク戦争で大量に使用されました。

その被曝によると強く疑われる小児ガンや白血病の多発に繋がっています。

北電に聞いたところ北電のウラン燃料は、カナダ、アメリカで精製されたもので、残ったウラン238は、安全に保管している。劣化ウラン

弾に転用されてはいない、とのことでしたが、私たちが原発の電気を使つことで戦争につながることは許されません。

遠くイラクの子どもたちにせめて医療支援をと、チヨコ募金を続けて16年になります。

札幌から幌延まで往復560km、車にいくつものアイスボックスを積んで月一回通り続け、売り歩いた女たちの活動は1993年から5年続きました。

この間、「貯蔵工学センター計画」から「深地層研究計画」へと名前を変えながら稼働が目前に迫り、1988年、その営業運転開始を止めようとして起きた『泊原発の可否を問う道民投票条例』を求める直接請求運動で103万筆(有効数90万筆)が集まりました。

手のひらに乗せられたペレット



泊原発を廃炉に!

3・11の後、札幌から泊まで100キロ、各地の首長さん泊廃炉メッセージを渡しながら歩き通したピースウォーカーは、若い人たちの力でした。※2

それぞの世代、土地で脱原発のバトンが渡されてきました。また新たに核のゴミ問題が寿都と神恵内で持ち上がり、地域の人々の切実な反対の声が上がっています。2011年3・11から2011年3・11から2008年のことです。

鎌仲ひとみ監督のドキュメンタリー映画「六ヶ所村ラブソディー」を見た若者たちが地元の原発を知ろうと、とまりん館を訪ねました。

2008年のことです。

その時、事もあろうに案内の職員が原発のウラン燃料はこれです、本物です、安全です、と手のひらにペレットを乗せてみんなで回して見ました。

たという事件が起こりました。※1

当時の原子力安全保安院の広報課長は、原発燃料は厳重な管理下にあり一般の人の手に渡ることはないと言いました。北電は、ブルサーマルシンポジウムの席上で報告、謝罪済みと取材を拒否して幕引きを図りました。しかし、かたや原発の安全神話をずっと巧妙に振りまいてきたのです。ブルトニウムの入った水を飲んでも安全と言っていたのです。経営倫理から考えても、許されません。

※1 参考映像

HBC Hanaテレビニュース

<https://www.youtube.com/watch?v=UOFkPRmSv14>

※2 参考映像

「札幌→泊 ピースウォーク」

<https://www.youtube.com/watch?v=4vS6dqO5zYw>